

スポーツ留学生における学校の生活実態及び生活満足度

日本語学ゼミナール 1216095 姜 匯峰

1. 研究動機・研究目的

留学生の数は近年、急激な増加を示していることが独立行政法人日本学生支援機構の調査で分かった。外国人留学生に関する研究が多数発表されているが、スポーツ選手に注目した研究は多くない。特に外国人留学生スポーツ選手に関する研究はほとんど行われていない。わざわざ海を渡ってきた外国人留学生達本当に幸せなのかを疑問を抱いた。したがって、外国人留学生選手に対する生活実態調査を行い、部活動以外の学校生活にどれほど満足しているかを調べたい。スポーツ留学生が来日する前に日本語学習がほとんど行っておらず、ほぼ白紙に近い状態で学校生活をスタートするのである。従って、言葉の習得がまず大切で、非常に必要不可欠だと考えられる。日本語が理解できないままで生活していると、学校の生徒や部活動の仲間達とのコミュニケーションが取れずストレスが溜まり、生活に不満やマイナスの気持ちが出ることが予想される。次に日本の文化を理解してもらえかが問題点として挙げられると考える。日本では上下関係がしっかりしており、年上や先輩には丁寧な言葉遣いや振る舞いが特に運動部の部活動では厳しく求められる。文化の違いによる衝突を防ぐ為にもそこを理解してもらうことがかなり重要だと考える。

また、部活動では母国と異なる練習環境や練習方針などに戸惑う可能性も充分あると考え、母国で競技をやっている時と来日後、競技の目標が変わったかどうか、どうしても慣れないことはあるかをインタビューの質問として投げかけ、問題点として捉える。最後に金銭的な問題も生活満足度に繋がるので、調べたいと考える。金銭的に満足しているかも注目していきたい。

2. 研究方法

ア. 大学で運動部に所属している留学生を対象に、インタビュー調査を実施する。

イ. インタビュー内容を質的データ分析手法 SCAT 用いて分析する。SCAT による分析をもとに、スポーツ留学生の生活実態及び生活満足度について考察する。

SCAT (Steps for Coding and Theorization) とは、マトリクスの中にセグメント化したデータを記述し、そのそれぞれに、

- <1>データの中の着目すべき語句
- <2>それを言いかえるためのデータ外の語句
- <3>それを説明するための語句
- <4>そこから浮き上がるテーマ・構成概念

の順にコードを考えて付していく 4 ステップのコーディングと、<4>のテーマ・構成概念を紡いでストーリーラインを記述し、そこから理論を記述する手続きとからなる分析手法である。

この手法は、一つだけのケースのデータやアンケートの自由記述欄などの比較的小規模

の質的データの分析にも有効である。また、明示的で定式的な手続きを有するため、初学者にも着手しやすい分析手法である。

3. 結論

本研究では2人のスポーツ留学生にインタビュー調査を実施し、SCAT (Steps for Coding and Theorization) による分析を行った結果、生活実態と現状の生活についての満足度がある程度捉えることができた。趙さんについては小さい頃からプロ選手になりたいや留学したいなどの夢は全くなく、成り行きで日本に留学することとなったことがわかった。趙さんと張さんは高校から来日している為、日本語の学習状況が良く、コミュニケーション不足によるストレスがいまではあまり感じないことがインタビューを通じて分かった。環境の変化による不慣れが生じて結果、競技へのモチベーションや目標設定に影響を及ぼすことが分かった。特に張さんにおいては、母国(中国)で競技やられていた頃は試合で勝つことより仲間と楽しくやることを重要視していた。毎日が楽しさに溢れ、充実した競技生活を送っていた。しかし、来日後母国の状況と真逆で、県内王者の座を守る為にプレッシャーに押し潰され、3年間バスケットボールの楽しさを見失っていたことからスポーツ留学生達にとって、心のケアやメンタルケアが必要不可欠だと感じた。能力の高い選手が強豪校に入り、メンタルがやられ、競技成績が一向に伸びない話がよく耳にするが言葉の壁がない日本人学生でさえそういう悩み抱える可能性があるのであれば、海を渡ってきたコミュニケーションが上手く取れないスポーツ留学生がなおさら心配されるべきである。来日したスポーツ留学生に対し、しっかりと目標設定や希望進路のヒアリングを行い、それに沿った育て方をすべきだと考える。また、2人とも金銭的な問題を少なからず抱えていて、学校側としては奨学金の支給や留学生向けの一人暮らし家賃支援制度がしっかりしていれば、大学生活における満足度の向上に繋げるのではないかと推測される。最後、日本人学生に比べ、保護者と接する機会が少なく、その為、年1度スポーツ留学生が出場している大会に保護者を招待し、自分の子どもが頑張っている姿を目にすることで保護者が安心し、スポーツ留学生本人の競技に対するモチベーションにもなると考える。

4. 卒業論文の執筆を終えて

まだまだスポーツ留学生に対してのサポートや支援体制が整えていなくて、課題は山積みであるが、スポーツ留学生を受け入れる学校がどのような学びの場を整えるか、その具体的な取り組み方について、毎年入学した各クラブのスポーツ留学生一人一人に調査やヒアリングを実施し、スポーツ留学生が望むサポートや支援体制を具体的に実現していくことを今後の課題としたい。